



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

7

犬の死因の第1位は？ 今でも捨て犬の殺処分です。先進国でも日本でも、犬は人の思いどおりに育つと衝動買いしたものの、うまくしつけができずに持て余し、結局、犬を死に追いやる飼い主やブリーダーが後を絶ちません。

子犬の脳は四カ月でおよそできあがります。人では約十歳でほぼ完成です。離乳の始まる四週から四カ月齢（永久歯に換わり始める時期）になるまで、犬の場合でも社会化（人・動物・社会に慣れること）期と呼ばれる最も大切で特別な期間なのです。だから、飼い始めたその日から、子犬の社会化としつけが大切になります。

## 社会化としつけ

### アイコンタクトを第一歩に

子犬に対する教育（しつけ）の第一歩は、名前を呼ばれたら必ず飼い主の所に来て目を合わすアイコンタクトと、「おいで」ができることです。目と目が合うことで、心のチャンネルが開かれるのです。人と人との関係、人間の子供の場合も同じです。

腰に着けたポシエットから一粒ドッグフードを取り出し、飼い主の目の前にかざし、犬が目を合わせたら、すかさず名前を呼び、これを繰り返すことで、犬は名前とアイコンタクトを覚えます。

また、犬はこの時、自然と人間を見上げることになり、頭が上がります。お尻が下がって座ることになります。座ったらすかさず、「お座り」と声をかけ、ごほうびをあげます。これを繰り返すことで、犬は自発的に「お座り」を覚えるのです。

こうすることで、犬は学習（自ら学ぶこと）が好きになり、飼い主が大好きでハッピーな犬になります。飼い主への信頼も育つことになるのです。

子供の教育は長い間、しつけとは叱ることでした。しかし、教育は叱ることも、強制することでもありません。まず第一に、犬も子供も要請されることを自ら喜んでやるようになることなのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2004年5月16日掲載》